

Take
Free

OT Occupational Therapist Life Life

※OT…作業療法士

私の
生きがい



～北上川の巖美溪～

平成20年脳梗塞にて入院し、リハビリテーションの一環として趣味である絵画を制作し、退院した現在も時間があればキャンパスに向かっている。ご家族や病院スタッフをはじめ、みんな新しい作品ができあがるのをとても楽しみにしている。

作者から皆さんへのメッセージ

今回の作品で特にこだわったところは、岩の質感や川の水に映える緑です。
長く続けられる趣味を見つけられたことで、毎日が充実していて楽しい!!
何をするにも3日坊主にならないように!!

【作者紹介】 上島 忠志氏(75歳)

編集後記

本誌は、一般社団法人 鹿児島県作業療法士会初の広報誌となります。皆様に少しでも作業療法士のことを知っていただくために、わかりやすく読みやすいものを制作できるよう努めて参ります。ご意見・ご感想を受け付けておりますので、右記問い合わせ先まで、よろしくお願いたします。

OT Life

一般社団法人 鹿児島県作業療法士会広報誌 発行日:2012年10月
発行責任者:竹田 寛 編集:一般社団法人 鹿児島県作業療法士会 広報部

お問い合わせ

一般社団法人 鹿児島県作業療法士会
事務局:鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科
〒891-0133 鹿児島市平川町5417-1
TEL(099)261-6161 FAX(099)262-5252
MAIL:info@kagoshima-ot.jp

CONTENTS

作業療法のお仕事って?

未来の作業療法士

OTみーつけた

～作業療法士 前畑 竜郎氏～

作品紹介

What's OT?

作業療法のお仕事って？

作業療法士とは？

※自働具:体の不自由な方が、可能な限り自分の力で生活できるように工夫された道具のこと

心や体に病気・障害を持った方々の生き方・価値観・思いを大事にしながら、再び一人ひとりがその人らしく生活できるように、支援するリハビリテーションの専門職です。

作業療法士(occupational therapist: OT)は、個人のライフスタイルに合わせて、生活動作を用いた練習(たとえば、お箸を使って食事をする、料理を作る、外出)や、手工芸や遊びを用いての練習(たとえば、指の動作練習に用いるちぎり

絵、自己表現を促すための絵画)などを行います。また、家屋改造のアドバイスや福祉用具の選択、自働具※の作成を行うなど、その仕事は多岐にわたります。ここでは、作業療法士の仕事の一部をご紹介します。

からだ 身体障害領域

私たちは手を上げる、指で物をつまむなど、体を自由に動かすことができます。しかし、病気や事故により、体を自由に動かせなくなる場合があります。それを動かせるように、または、自宅で生活ができるように練習をしていくのが、身体障害領域の作業療法です。

対象疾患

- 脳卒中
- パーキンソン病
- 高次脳機能障害
- リウマチ
- 頭部外傷
- 脊髄損傷
- 末梢神経障害
- など

例 脳卒中により左手が麻痺し、思うように動かせなくなったAさん。練習をして少しずつ動くようになり、できる事を増やしていきます。



発達 発達障害領域

病気や事故などが原因で、心や体の発達が遅れてしまった子どもたちや、生まれつき障害を持った子どもたちがいます。その子どもたちに対し、その子が取れるコミュニケーション方法や楽しく遊ぶ方法を、ご家族とともに見つけたり、運動や道具の操作など学校に入学するときに困らないよう、事前に必要な事を練習したりします。

対象疾患

- 脳性麻痺
- 脳外傷
- 知的障害
- 筋ジストロフィー
- 学習障害
- 自閉症
- など

例 脳性麻痺で右手でスプーンを上手く使えないCちゃん。スプーンの柄を太くし持ちやすくしました。また、右手を上手く使えるよう、ぬいぐるみを使い練習を行います。



こころ 精神障害領域

精神疾患をわずらうと、「他人が自分の悪口を言っている」「虫が体を這っている」などの幻聴や幻視があらわれることがあります。また、物事を覚えるのが困難になったり、ささいなことで混乱しやすくなったりするため、今までできていたような家事や仕事ができなくなってしまいます。入院し症状が落ち着いたとしても退院後の生活に不安を抱く方も多く、そこで作業療法士は退院するために必要な生活のスキルや自信をつけられるような練習を行います。

対象疾患

- 統合失調症
- うつ病
- アルコール依存症
- など

例 うつ病のBさん。症状は落ち着いたものの自分の能力について不安を訴えています。作業を一人で行うことで自信の獲得を図ります。



高齢期 高齢期障害領域

年齢を重ねるごとに病気がちになり、倒れて骨折してしまったり、興味を持つものもなく、家に閉じこもってしまったりするお年寄りがあります。そのまま寝たきりになり、認知症になってしまう方もいます。再び住み慣れた自宅や地域で生活できるように、レクリエーションなどの活動を通して、お年寄りのやる気をアップさせ、楽しみながら体力をつけ、着替えやトイレなど生活上で必要な事ができるように練習を行っていきます。

対象疾患

- 脳卒中
- 骨折
- 認知症
- リウマチ
- など

例 病気が原因で寝たきりになってしまったDさん。好きなことを通して寝たきり改善・体力アップを図ります。



未来の作業療法士！

養成校に通っている学生さんに、作業療法士を目指したきっかけや、今がんばっていることを聞いてみました！



- ① OTになろうと思った・知ったきっかけ
- ② 好きな勉強科目
- ③ 実際に入学してからの感想
- ④ いま頑張っていること
- ⑤ 臨床実習を通しての感想
- ⑥ どんな作業療法士になりたいか

1

米倉 翔さん

2

菊水 花寿さん

3

樋高 大勢さん

4

北丸 理穂さん

- ① もともとスポーツをしており、理学療法の道に進みたかった。しかし、祖母が脳梗塞で倒れたのをきっかけに、作業療法の仕事を知った。人とコミュニケーションを取ることが好きだったので、作業療法士になろうと思った。
- ② 作業療法学、体育。
- ③ 勉強は覚えることがたくさんあって大変だが、いい仲間とたくさん会えた。
- ④ 1、2年生の時の復習(解剖学)。
- ⑤ 実習に行って、学校の授業の内容と実際の患者様の疾患や状態の違いなどを感じた。また、基礎知識が足りないことに対して「このままじゃダメだ」と思った。
- ⑥ 身体障害領域で働きたい。さまざまな角度から患者様を見ることができ、笑顔のたえない作業療法士になりたい。

- ① 高校3年生。ドラマや書物を読んで、作業療法を知った。友人のお兄さんが作業療法士で、いいなと思った。さらに、同じクラスの友人が専門学校に行く聞いて自分も行こうと決めた。
- ② 勉強が大変(特に、筋肉の名前)。
- ③ 自宅の手伝い。親が働いているため勉強と両立している。
- ④ 身体障害分野は急性期※1が忙しそうだったが、1日1日患者様の様子が良くなっていくのを見ることができて嬉しかった。精神障害領域では、患者様とコミュニケーションをたくさんとれて楽しかった。実習中に、自分が思うようにできなくて泣いた。
- ⑤ どの領域で働こうか迷っている…。先生から「この病院で一生働く」と決めた方がいいとアドバイスを頂いた。患者様のためになることをたくさん考え、気持ちの分かる作業療法士になりたい。

※1 急性期…病気の初期の段階

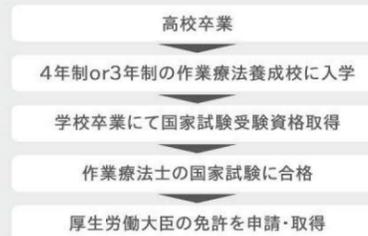
- ① 高校1年生のとき、いとこが作業療法士をしていたのがきっかけ。祖母が入院したときに、人と接するところやADL※1にまで介入するなど真剣に接していると感じた。
- ② 勉強は難しいが、自分で疑問に思ったことを調べ、先生に質問し分かったときに嬉しく感じる。
- ③ 放課後、自主的に勉強をしている。
- ④ 自分の知識の無さを実感した。高次脳機能障害※2などは、教科書でしか学習しなかったため、実習に行って勉強になった。
- ⑤ 身体障害領域と発達障害領域のどちらに進もうか迷っている。患者様を安心させ、あなたでよかったと思われる作業療法士になりたい。

※1 ADL…私たちが普段の生活において必要な動作(食事、排せつ、入浴、移動、寝起きなど)
 ※2 高次脳機能障害…脳の損傷によって起こされる、記憶障害、注意障害などで、脳の損傷部位によって症状は異なる。

- ① 高校3年生の時に、父がリハビリを受けている姿をみて「いいな」と思った。細かい作業も好きだったため、作業療法士を選んだ。
- ② 作業療法学。作業活動を通して治療に繋がる科目。
- ③ 勉強は難しいけど、興味を持てるものがたくさんあって楽しい。
- ④ 勉強。
- ⑤ もともと精神障害領域に興味があったが、身体障害領域(急性期)に実習に行き、どちらも自分のためになると感じた。
- ⑥ 精神障害領域で働きたい。患者様に寄り添い、気持ちを共有できる作業療法士になりたい。



作業療法士になるまでの道のり



- 校内授業
- ・一般教養(保健体育、英語など)
 - ・基礎分野(解剖学、生理学、リハビリテーション医学など)
 - ・専門分野(作業療法治療学、作業療法概論など)

- 臨床実習
- ・見学実習
 - ・評価実習
 - ・長期実習 など

※学校卒業と同時に資格取得ができるわけではありません。国家試験の受験資格を得ることができます。

鹿児島県内の作業療法養成校紹介

県内には養成校が4校あります。各学校それぞれ特色がありますので、興味のある方は、ホームページで情報を検索してみてください。

鹿児島第一医療リハビリ専門学校(3年制)
 〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央一丁目12-42
 TEL 0995-48-5551

昼間部
40名

神村学園専修学校(3年制)
 〒896-8686 鹿児島県いちき串木野市別府4460番地
 TEL 0996-32-3232

昼間部
40名

鹿児島医療技術専門学校(4年制)
 〒891-0133
 鹿児島県鹿児島市平川町宇都口5417-1
 TEL 099-261-6161

昼間部
40名

夜間部
40名

鹿児島大学(4年制)
 〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
 鹿児島大学歯学総合研究科等 学務課医学教務係
 TEL 099-275-6721

20名

OT^じ みつけた。

作業療法は利用者の「生活の質=QOL(quality of life)」を考える仕事です。ここでは作業療法士を取材し、その方の魅力を伝えながら、生活を支える専門職である作業療法士がどのような視点を持っているのかを探っていきます。今回は、伊佐市大口にある大口病院(精神科)で作業療法士として働いている、前畑 竜郎さんです。前畑さんは、病院での仕事以外にも、休日を利用して「^じ十曾こどもの森」という親子を対象とした地域の育ち合い事業の運営に携わっています。その活動の一日を取材してきました。



^じ「十曾こどもの森」とは？

NPO法人トータルサポートネットワークが伊佐市より受託し、市民参加型で整備した自然体験フィールドの名称(平成23年度十曾こどもの森・育ちあい事業)。石窯のあるわらの家、五右衛門風呂、菜園コロニー等は子どもたち、ボランティアを含めた延べ600名によって製作された。ピザ作りを主としたオープンデイ(第3日曜日)や各種の体験活動を主催している。この日のイベントは、地元の小学2年生の親子を対象に、ピザ作りや風呂焚きハンモック等の体験活動が行われていた。(鹿児島県伊佐市大口小木原 十曾青少年旅行村内)

ホームページ <http://jissokodomonomori.blog.fc2.com/>

「輪(わ)」

イベント前、この事業の立ち上げから携わっている前畑さんに活動に対する想いを伺うと、「この活動のテーマは“輪”なんです。輪という言葉は、『人と人が繋がっている状態』をイメージできますよね。ピザ、五右衛門風呂、菜園の形は、“輪(円)”を意識しているんです」と

話してくれた。前畑さんは石窯づくりでも有名で、地域の保育園や施設、家庭などに要望に沿った石窯の設計や設置のお手伝いをしている。石窯には、“たくさんの人たちのつながりの場になるように”、という思いも込められている。



「“いきいき”を生み出す」

この日の最初のイベント、ピザ作り。子どもたちが悩み過ぎず、スムーズに作業にとりかかることができるように、ピザに載せる具材の種類をあらかじめ絞っておいたり、子どもたちが一生懸命楽しんで取り組めるように「Jrスタッフ」と称した「ミニリーダー」を設け、参加した子どもたちにできる範囲でリーダー役を任せたりしていた。そうすることで、子どもたち一人一人の“いきいき”を生み出している。



「子どもたちが発想力を生かし、自分で行動を選択できるようにする」

「大人は決まった枠組みの中にはめようとする。だから、少し違ったことをすると『違うでしょ』と修正しようとするけれど、子どもたちはちゃんと自分で答えを見つけられるんです。だから、大人には、子どもたちを見守ってほしいと伝えます」。子どもたちは無限の発想力を持っている。

「私もリハビリテーションの仕事なので、ここをこうしたら子どもたちがもっと興味もって取り組んでくれるかな、これをするにはもう少し段階を追って進めたほうが…、などといったことを考えたりするんですけど、思い通りにはいかないんですね」と逆に子どもたちから学ぶことが多くあるとも教えてくれた。

「それぞれの立場を大切に～子どもはのびのびと、お母さんはのんびりと～」

イベントでピザを食べ終えた子どもたちは、次は外の五右衛門風呂を焚くために、薪割りを始める。その五右衛門風呂の横にある小屋に設けられたのはハンモック。これも子どもたちがワクワクしそうだ…なんて思っていたら、「これはお母さんたちの為なんです」と前畑さんは言う。

「お母さんたちにものんびりと過ごしてもらいたいです。子どもたちをスタッフが見守る間、ハンモックに優しく揺られ、時には風を感じながら本を読み、コーヒーを飲み…そんな時間も大切なですよ」。

また、ハンモックの設置の仕方を見ているお父さんたちへも、「お父さんって、子どもやお母さんから『お父さんは頼りになるね』すごいね』って思われたいものなんです。だからお父さんの威厳を損なわないように、何かするときには事前にしっかり道具の取り扱い方や工程の説明をします」と参加者一人一人の立場や役割へ配慮しているのがよく伝わってくる。



「自分自身も支えられている」

運営していて良いこともたくさんある反面、「この活動は始ったばかりで、限られたNPOスタッフで運営しているので、継続して進めていくのは簡単ではないんです」という。前畑さん自身、結婚し、お子さんもいながら、週末にこういった活動をしているため、お子さんに関わる時間が少ないようだ。「家族のサポートがあってこそ」と感謝の言葉を残していた。



前畑 竜郎 氏

国家資格取得後、大口病院にて作業療法士として勤務。地元伊佐市の地域活動にも積極的に取り組んでおり、メディア(「げっさん!かごしま」、「チャンネル8」、ラジオなど)への出演も多数。NPO法人トータルサポートネットワーク理事

楽しいの気ままな日記 http://blogs.yahoo.co.jp/tat_horse/

～あとがき～

前畑さんの魅力、伝わったでしょうか。今回は病院の外の活動を取材しましたが、仕事を考えても「患者様の社会復帰を支援する上では、実際に地域の方々と交流し、生活の中でどんなことを考え悩んでいるのかを知っておくのが大切」と、この活動が生かされていると話してくれました。これからも前畑さんの活動から目が離せませんね。